

平成23年度 第2回理事会 議事録

日 時：平成23年8月29日 場 所：日本医療福祉専門学校 8F

出席者：(敬称略)

岩丸 陽彦 (刈谷豊田総合病院)、向 文緒 (中部大学)、新美 修治 (かなめ病院)、
澤田 泰洋 (中部大学)、佐久間 大輔 (あさい病院)、
田口 真司 (日本医療福祉専門学校)：(以上理事)
堀部 恭代 (愛知医療学院短期大学)：(以上委員長)
三島・江端 (第20回 愛知県作業療法学会 実行委員長・運営部長)
書記 磯貝 理栄 (日本医療福祉専門学校：事務局員)

報告事項

会 長：8月9日に愛知県の理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士の会の会長と先日開催された「訪問リハビリ地域リハビリリーダー 育成研修会」の出席者にて訪問リハビリ地域リハビリリーダー育成研修会の報告ならびに「愛知県訪問リハビリテーション連絡協議会」の活動報告がおこなわれた。

報告内容としては

1. 昨年度の活動の総括
研修会の継続必要
2. 今年度の活動計画
 1. 第2回東海3県合同訪問リハビリ実務者基礎研修会の開催
 2. 愛知県訪問リハビリ実務者応用研修会の開催
 3. 調査 (サービス提供状況)・ネットワーク化・周知

今年度の活動の「応用研修会の開催」、「調査 (サービス提供状況)・ネットワーク化・周知」に関しては、活動計画 (内容・予算など) をしっかり検討するように意見が出された。

9月4日に会議あり、計画を立てる予定。堀部氏が担当する。

副会長：特になし

事務局：特になし

広報部：特になし

学術部：特になし

教育部：特になし

財務部：特になし

保険部：特になし

福利部：特になし

作業療法推進事業委員会：

1. 高校生施設見学会の報告：8月1日～12日の期間において、高校生施設見学会を実施した。
2, 3の問い合わせ (高校生が来ない) があったが、無事に終了している。しかし、配置確定後、進路変更を理由に5件程度の同一校からのキャンセルがあった (進路変更) ため、今後同じような事が無い様お願いをした。

規約委員会：特になし

表彰選考委員会：特になし

選挙管理委員会：特になし

法人化準備委員会：特になし

都道府県連絡協議会：特になし

機関誌編集委員会：特になし

第20回県学会 学会長：別紙あり

検討事項

会長：協会発 「代議員選挙運営委員」の推薦依頼について

代議員選挙運営委員を1名推薦する必要がある。運営委員は代議員には立候補できない
(愛知県の代議員は7名となる)

代議員への立候補が定数に満たない場合は、県士会へ推薦を依頼される

(場合によっては、県士会で最大で8名の推薦が必要となり得る)

⇒協会のHPでは9月までに運営委員決定、11月代議員選挙になっている。

運営委員をHP上で公募する。締め切りは会長に確認。内容とリミットを理事にメールして、推薦候補者を考えておく。決定は3役会にて決定する。

地域医療再生に関する三師会ワーキンググループについて9月下旬から10月初旬に、2時間程度の相談会を開催予定 場所：東郷町 和合ヶ丘地区 集会場

出来れば地元の人間を参加させてほしいとのこと。日時に関しては、現在調整中。

⇒12職種出ているため、OTは1回でよい。

一般市民より相談内容がわからないと意見あり、OTの説明をして相談を受ける予定。

9月20日の会議にて詳細日程が決定。東郷周辺で訪問リハをやっている会員に依頼する。

公募を出すとともに、相生山：前田先生、豊明老健：森山先生、かずえの郷：近藤先生に依頼していく(事務局より依頼)。誰もいなければ堀部が出る。

決定は三役会。

第8回愛知県精神障害者スポーツ(バレーボール)大会の来賓出席について

日時：10月26日 9時45分から開会式 場所：東海市民体育館

どなたか出席可能でしたら、教えてください。

⇒佐久間または田口が出席予定。他にも推薦があれば出して頂きたい。

時次期学会長の選出について

依頼先を検討して欲しい Ex：学校で行くか、勉強会で行くかなど

⇒老年期 or 発達関係が良い。

水口先生(教育部部長)急病に際して

生涯教育制度推進担当者ならびに教育部部長選出について

新たに生涯教育制度推進担当者を選出し、新たに協会へ報告する方向で進めたい

(3月ごろに会議がある)

現在の教育部に副部長がいれば問題は無いが、いないようならば現在の部員の中から互選していただき、その方に事態を收拾していただくのがスジなのでしょうが、おそらく組織だって運営されていなかったと考えます。

時間的な問題もあるので、理事会の中で担当者を選出し、事態の收拾をはかるべきかと提案します。

当面の課題

- * 今年度の教育部の活動状況の把握
 - ⇒共通研修の予算の動向を事務局より富山先生に確認する。
 - 選択研修老年期はほぼ日程、講師決定。精神は依頼されているかから勉強会に確認する（三役会で確認する）。
 - 事例報告の承認がきている。
 - * 組織の再構築(まずは部長の選出)
 - ・ 現職者共通研修に関しては、星城大学の富山先生がリーダーのようなので、スムーズな進行をお願いしておきます。
 - ・ 現職者選択研修は、進行が不明です。早急になんらかの対応が必要です。
 - + 新たな部長の下で、計画・実施。
 - + 担当理事が、昨年同様のプログラムを実施
 - + 事情が事情なので、今年度は開催を断念
 - + その他
- ⇒部長、副部長を必ず置くこととする。
- 9月15日まで推薦者を募る。
- 富山先生に現状報告、状況確認するとともに、部長・副部長の相談を行う（事務局）。
- 老年期選択研修は新美がすすめていく。
- 精神選択研修は向が確認する。
- 事例の承認に関しては、承認印の在りかを確認し、必要があれば作成する。事例の承認の基準を確認（岡田先生より富山先生に確認）。
- 愛知医療の業務量含め、どこまで受けられるか検討していただく。

副会長：特になし

事務局：特になし

広報部：特になし

学術部：特になし

教育部：特になし

財務部：特になし

保険部：特になし

福利部：特になし

作業療法推進事業委員会：

あったかあつた福祉フェスタ（H23. 10. 30）に県士会としてブースを担当して欲しいという依頼あり。時間は10～12時。

内容は、コース立方体を使ったIQ測定 県士会員2名の派遣を希望している

対象は、地域住民 障害についての理解促進を目的としている活動

出展について⇒出展は承認。IQ 厳密な測定ではなく、体験のみとする。主催者に誤解を招く可能性があるため、厳密な測定ではなく、一部の体験のみでよいか確認する。

担当者⇒新美担当。2名を推薦する。同一の職場でない方が良い。推薦者を新美に送る。

規約委員会：特になし

表彰選考委員会：特になし

選挙管理委員会：特になし

法人化準備委員会：特になし

都道府県連絡協議会：特になし

機関誌編集委員会：特になし

第20回県学会 学会長：

①_r 演題採択について Accept を90%程度に設定したい

⇒まずはパーセンテージを先に決定するのでは無く、演題採択の評価基準をきちんと設定してはどうか。

②_r 演題発表を対象に、会員による投票にて最優秀演題を選出したいのだが

⇒表彰すること自体は問題ないと思うのだが、やはり審査は公正に。分野ごとの聴講者のバラツキなどにも注意して再考頂きたい。

③_r 講師謝礼金を受け取れない講演者に対して、寄付と言う形で謝礼金を支払って良いか

⇒よい

④_r 運営スタッフに対し、参加費を返金したい

⇒学会運営については、持ち回りで運営されており、歴代の運営者にも支払われた経緯が無いため、返金はなしでお願いしたい。

その他

税理士（新開氏より）

課税リスク、民法上の相続のリスク回避は法人化におけるメリットとなる。

しかし、法人化後は法人自体に責任がかかる。

利益が出れば納税をする必要あり。活動方針自体（何を目指すのか）を見直す必要あり。この機会を利用して話しあっていただきたい。（団体が人格を持つということで、どの様に成長させていきたいかという指針）

現在の士会運営は、会員の親睦・技量向上などが主であり、公益法人の要素が大きい。

しかし、広報を含めて活動を拡大する事を考えるのであれば、収益活動も税を払えば可能。

そういうことも含めて、非営利型の一般社団法人を薦めている。

今日の議事では・・・

現金返金は疑義が生じる。給料としての課税の可能性あり。書籍や飲食であれば問題ない。

会員外（非会員、学生）は課税対象となる可能性あり。

学会の位置づけをどのようにするか？（組織内か外か）他の士会も参考にして確認していただきたい。内であれば収支の捉え方の問題あり、外であれば学会自体に責任が生じる（士会からの活動準備金は寄付となる）。

定款を作成するにあたり、規約の中でどうしても残していただきたいものがあれば伝えていただきたい。

定款作成や法人化に向けて司法書士に入っていただく必要がある。その費用（25～30万程度？）も必要となるが、自分達で法人化を進めても同様に費用はかかるため、司法書士を利用する形を検討している。

移行の時期をどうするか？ 4月 or 7月

→総会后、県士会解散の決議をとり、総会后に新しい法人を設立。理事などもそのまま移行する事も決議をとれば可能。別会費の必要もないため、7月時点での移行が一番スムーズである。実質的には総会后、理事の承認を得て会発足まで2～3週間かかる。